

〔源氏物語五若紫〕すこし立出つ、みわたし給へば、たかき所にて、こ、かしこ僧坊どもあらはにみ

おろさる、たゞ此つゝらおりのまもにおなじこしばなれど、うるはしうまわたして、きよげな
るやらうなどつゞけて、こだちいとよしあるは、なに人のすむにかととひ給へば、略下

〔藻鹽草山〕坂名所

こ坂 ちとせの坂とこれ名所にもありと云々、未勸、ち千代の坂のあみだが行と云は、さかゆるに、よせ
り、よろづ世の坂にそれたさかゆる坂のふもと、いつはたの坂我をせおもは、いなり坂山を
のぼくとく宿を出つや、いなりさか大坂みち中、或やま、大さかをわがこえかみれば、ふたかみは、
しまつかとおぼゆる也、いかた、手子喚坂か、れん、戀、やどりはなし、長坂へん、ひむる、うするの坂
しだに、いながもひりくすぬのさかをこえ、くま坂あふみ、長明、久世鷺坂山、つ、秋は、ちり、白鳥の
さきさかともよめり、松かげ、白つ、卵花、又久世の八十須美坂、その國、手向も、たす、まね
き坂、伊勢、まきりさか、まねくを、花成けり、藤代御坂、あけるも、松、不、御屋坂、あふみ、な、あふ坂
あふみ、人のこま、驚、すき、まの、戀、木、の、下、露、さ、く、ら、花、山、人、の、せ、き、も、る、神、ま、の、す、き、さ、れ、か、づ、む、ら、あ
しがらの御坂、いさがみ、さやへて、みる神、御さかとも、瓜生坂、かへ鹿、き、す、木、曾、御坂、原、花、雪、夕、立、こ
ま、ぬ、さ、た、なら、坂、は、ま、と、この、ぎ、す、行、あ、ひ、坂、くら、花、さ、ゆ、坂、さ、が、み、つ、ら、お、り、の、さ、か、也、源、氏、
て、ま、つ、る、なら、坂、は、ま、と、この、ぎ、す、行、あ、ひ、坂、くら、花、さ、ゆ、坂、さ、が、み、つ、ら、お、り、の、さ、か、也、源、氏、

〔日本書紀神代一書〕曰、伊弉諾尊已到泉津平坂、一云伊弉諾尊乃向大樹放屣、此即化成巨川泉
津日狹女將渡、其水之間、伊弉諾尊已至泉津平坂、故便以千人所引磐石塞其坂路、與伊弉册尊相向
而立、遂建絶妻之誓、略下

〔日本書紀神武三〕戊午年四月甲辰、皇師勒兵、步趣龍田、略中、時長髓彦聞之曰、夫天神子等所以來者、必
將奪我國、則盡起屬兵、徼之於孔舍衛坂、與之會戰、略下

〔古事記中景行〕亦平和山河荒神等、而還上幸時、到足柄之坂、本於食御糲處、其坂神化白鹿而來立、略下